

評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

| | | |
|------------|--------------|-----------------|
| 総合計画上の位置付け | 計画の推進に向けた考え方 | 歴史的遺産と共生するまちづくり |
|------------|--------------|-----------------|

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

| | | | | | | |
|-----------------------|--------------------|-------|--------------------|-------|--------------------|-------|
| 取組を知らない・わからないと答えた人の割合 | 平成30年度 (2018年度) | 26.3% | 平成29年度 (2017年度) | 25.3% | 平成28年度 (2016年度) | 21.1% |
| | 平成27年度 (2015年度) | 21.2% | | | | |

(2) 妥当性

お金の使い方

| | 使いすぎ | ちょうどよい | 足りない |
|---------|------|--------|-------|
| 必要以上の効果 | 3.1% | 0.7% | 0.3% |
| ちょうどよい | 1.0% | 39.0% | 0.7% |
| 効果不十分 | 8.6% | 3.5% | 11.7% |

平成30年度
(2018年度)

お金の使い方

| | 使いすぎ | ちょうどよい | 足りない |
|---------|------|--------|-------|
| 必要以上の効果 | 3.2% | 1.8% | 0.5% |
| ちょうどよい | 1.9% | 40.6% | 0.7% |
| 効果不十分 | 6.3% | 5.4% | 10.0% |

平成29年度
(2017年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

お金の使い方

| | 使いすぎ | ちょうどよい | 足りない |
|---------|------|--------|-------|
| 必要以上の効果 | 3.2% | 1.6% | 0.2% |
| ちょうどよい | 2.7% | 41.9% | 0.4% |
| 効果不十分 | 5.9% | 5.0% | 12.6% |

平成28年度
(2016年度)

お金の使い方

| | 使いすぎ | ちょうどよい | 足りない |
|---------|------|--------|------|
| 必要以上の効果 | 4.7% | 1.1% | 0.3% |
| ちょうどよい | 2.3% | 39.8% | 1.1% |
| 効果不十分 | 8.3% | 4.4% | 9.4% |

平成27年度
(2015年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

| | もっと力を入れるべき | 現状のままで良い | 力を入れなくて良い | 無回答 |
|----------------|------------|----------|-----------|-------|
| 平成30年度(2018年度) | 17.5% | 39.5% | 11.7% | 31.2% |
| 平成29年度(2017年度) | 17.4% | 40.1% | 13.0% | 29.5% |
| 平成28年度(2016年度) | 20.6% | 40.0% | 13.5% | 25.9% |
| 平成27年度(2015年度) | 19.6% | 38.2% | 15.0% | 27.2% |

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

歴史的遺産と共生するまちの実現に向けて、鎌倉の魅力や価値を発信する取組や、鎌倉の歴史的遺産を後世に伝えるための事業として次の事業を主体に取り組む。

世界遺産登録については、神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会において、平成26年から実施してきた比較研究の成果をもとに、専門家等の意見を踏まえ、世界遺産登録に結びつくコンセプトの再構築の検討を進める。また、普及啓発事業や様々な媒体を活用した情報提供によって、広く市民等に発信していく。(歴史-01)

鎌倉市歴史的風致維持向上計画を推進するため、構成事業の進行管理を行うとともに、歴史的風致形成建造物の指定を進めていく。(歴史-02)

日本遺産事業は、国からの補助金が平成30年度で終了するが、歴史的遺産と共生するまちづくりを推進し、観光振興事業等に寄与することが期待できるため、協議会自立のための課題整理を行い、事業継続のために具体的な検討を進めていく。(歴史-03)

上記事業のうち、特に情報発信については、文化財施設課(鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館)と協力しながら、取組を進める。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

| 評価対象事業名 | | 決算値(千円) | | 総事業費(千円) | | 職員数(人) | | 法定受託 事務 | 今後の 方向性 | |
|---------|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------|----------------------------|---------------------------|------------|------------|----------|
| 整理番号 | 事業名 | 平成30年度 (2018年度) | 平成29年度 (2017年度) | 平成30年度 (2018年度) | 令和元年度 (2019年度) | 平成 30年度 (2018 年度) | 令和 元年度 (2019 年度) | | 事業 内容 | 予算 規模 |
| 歴史-01 | 世界遺産条約登録事業 | 6,740 | 8,509 | 18,180 | 14,881 | 1.5 | 1.0 | 無 | b | B |
| 歴史-02 | 歴史的遺産と共生するまちづくり推進事業 | 245 | 1,100 | 7,872 | 4,307 | 1.0 | 0.5 | 無 | b | B |
| 歴史-03 | 日本遺産事業 | 678 | 201 | 12,118 | 13,998 | 1.5 | 1.5 | 無 | a | A |

(3) 主な実施内容

[主な実施内容]

神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会において、再推薦・登録に向けた次の取組を実施した。

(歴史-01)

- ・世界遺産登録に結びつくコンセプトの再検討の資料とするため、百八やぐらの基礎調査を行った。
- ・平成29年度にやぐらの起源をさぐるために行った、龍門石窟研究院(中国)との学術会議等の内容を報告書にまとめた。
- ・市民への情報提供として、比較研究報告書や講演会報告冊子を発行した。
- ・成果をとりまとめたものを準備状況報告書として文化庁に提出した。

鎌倉市歴史的風致維持向上計画に搭載した構成事業の進行管理を行った(歴史-02)

- ・平成30年度の進行管理・評価を実施するとともに、歴史的風致維持向上計画協議会を開催し、進行管理・評価に対して委員から意見を聴取した。
- ・「鎌倉国宝館」を歴史的風致形成建造物に指定した。

鎌倉の日本遺産ストーリーの魅力を発信するため、日本遺産協議会で次の事業を実施した。(歴史-03)

- ・鎌倉の日本遺産のストーリーを紹介するコンテンツを視聴できる情報紹介コーナーを鶴岡八幡宮境内に設置した。
- ・外国人向けツアー等の造成を目的としたモニターツアーを実施した。

市民への普及啓発のために、平成28年度に作成したブックレットを配布した。また、日本遺産サミットに参加し、鎌倉の歴史・文化の魅力について情報発信を行った。(歴史-03)

- ～ ツイッターを開設し、市民等に対する情報発信を行った。

(4) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

| | | | |
|-----|------------------------------------|----|-----|
| 効率性 | 計画全体の推進に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか | 適切 | 要改善 |
| 妥当性 | 計画全体の推進に向け、妥当(適切)な取組であったか | 適切 | 要改善 |
| 有効性 | 計画全体の推進に向け、適切な成果が得られていたか | 適切 | 要改善 |
| 公平性 | 計画全体の推進に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか | 適切 | 要改善 |

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・世界遺産条約登録事業は、神奈川県、横浜市、逗子市と連携し、世界遺産の再推薦・登録に向けた取組を着実に進め、比較研究の成果を準備状況報告書として文化庁に提出し、市民に対する周知啓発事業や情報発信を行うことができたことから、効率性・妥当性・有効性について適切と判断した。
- ・歴史的遺産と共生するまちづくり推進事業は、鎌倉市歴史的風致維持向上計画搭載の構成事業を推進し、進行管理の確に行ったことから、妥当性・有効性・公平性について適切と判断した。特に社寺境内公衆トイレ整備事業は、国庫補助金を活用して実施することができ、効率性についても適切であると考える。
- ・歴史的風致形成建造物の指定について、平成29年度に計画していた「旧鎌倉図書館」の指定がかなわなかったが、「鎌倉国宝館」に候補対象を変更して指定することができたことから、効率性・妥当性について適切と判断した。
- ・日本遺産いざ鎌倉協議会事務局として協議会事業を円滑に運営し、関係団体、構成文化財所有者と協力しながら、国庫補助金を活用しながら日本遺産魅力発信推進事業の取組を着実に進めることができたことから、効率性・妥当性・有効性について適切と判断した。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ・将来都市像である「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」を実現するためには、歴史まちづくり推進担当が所管する事業だけではなく、市の施策全体に「歴史的遺産と共生するまちづくり」の考え方を反映させていく必要がある。
- ・日本遺産庁内プロジェクトチームや歴史的遺産と共生するまちづくり推進検討委員会等庁内組織を通じて、他事業との連携強化を進める必要がある。
- ・市民の理解を深めるために、事業を着実に推進し、様々な媒体を活用して、個別事業の事業内容や意義について情報発信を行う。

4 令和元年度(2019年度)の目標

歴史的遺産と共生するまちの実現に向けて、鎌倉の魅力や価値を発信する取組や、鎌倉の歴史的遺産を後世に伝えるための事業として次の事業を主体に取り組む。

世界遺産登録については、神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会において、平成26年から実施してきた比較研究の成果をもとに、専門家等の意見を踏まえ、世界遺産登録に結びつくコンセプトの再構築の検討を慎重に進める。また、普及啓発事業や様々な媒体を活用した情報提供によって、広く市民等に発信していく。(歴史-01)

鎌倉市歴史的風致維持向上計画を推進するため、構成事業の進行管理を行うとともに、歴史的風致形成建造物の指定を進めていく。(歴史-02)

日本遺産事業は、国からの補助金が平成30年度で終了したが、歴史的遺産と共生するまちづくりを推進し、鎌倉の魅力発信に寄与することが期待できるため、協議会自主事業としてブックレットの有償頒布の実現を図る。(歴史-03)

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

| 整理番号 | 歴史-01 | 事業名 | 世界遺産条約登録事業 | | | | | 単位 | 回 | 指標の傾向 | 備考 |
|--|--------------------------------------|-----------|---------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----|---|-------|----|
| 指標の内容 | 講演会等の実施回数 | | | | | | | | | | |
| 当該指標を設定した理由 | 年次 | H26(2014) | H27(2015) | H28(2016) | H29(2017) | H30(2018) | R01(2019) | | | | |
| 比較研究において得られた成果を含め、「鎌倉」の価値や魅力について公表する有力なツールであるため。 | 目標値 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | | | | |
| | 実績値 | 1.0 | 4.0 | 9.0 | 1.0 | 0.0 | | | | | |
| | 達成率 | 100.0% | 400.0% | 900.0% | 100.0% | 0.0% | | | | | |
| 整理番号 | 歴史-02 | 事業名 | 歴史的遺産と共生するまちづくり推進事業 | | | | | 単位 | % | 指標の傾向 | 備考 |
| 指標の内容 | 計画に登載した構成事業の進捗率 | | | | | | | | | | |
| 当該指標を設定した理由 | 年次 | H26(2014) | H27(2015) | H28(2016) | H29(2017) | H30(2018) | R01(2019) | | | | |
| 構成事業を着実に実施することで、歴史的風致の維持向上を図るため。 | 目標値 | - | - | 50.0 | 55.0 | 60.0 | 65.0 | | | | |
| | 実績値 | - | - | 45.0 | 52.5 | 55.0 | | | | | |
| | 達成率 | - | - | 90.0% | 95.5% | 91.7% | | | | | |
| 整理番号 | 歴史-03 | 事業名 | 日本遺産事業 | | | | | 単位 | % | 指標の傾向 | 備考 |
| 指標の内容 | 市民意識調査「鎌倉に住み続けたいかどうか」(市民の市への愛着度)の回答率 | | | | | | | | | | |
| 当該指標を設定した理由 | 年次 | H26(2014) | H27(2015) | H28(2016) | H29(2017) | H30(2018) | R01(2019) | | | | |
| 当該事業の実施により、市民が本市に住み続けたいと感じてもらったため。また、日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化を測る指標として文化庁が設定しているため。 | 目標値 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | | | | |
| | 実績値 | 84.7 | 83.1 | 86.5 | 86.8 | 87.1 | | | | | |
| | 達成率 | 84.7% | 83.1% | 86.5% | 86.8% | 87.1% | | | | | |

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- 世界遺産の再推薦・登録に向けた取組を進めるなかで、比較研究において成果を得ることが、新たなコンセプトを確立するための重要とされるが、進捗はどのような状況かが分からない。
- 鎌倉歴史文化交流館においては、鎌倉を訪れる小中高生が鎌倉の歴史・文化を学べるよう、展示内容を工夫してほしい。
また、鎌倉市の文化や伝統を学ぶ教育機能として、工夫発展を期待する。
- 世界遺産があるから、まちづくりのレベルも歴史、自然環境との調和をめざす、過度の観光客や交通渋滞の回避など、世界レベルにしていこうという機運醸成をしてはどうか。
- 日本遺産庁内プロジェクトチームや歴史的遺産と共生するまちづくり推進検討委員会等庁内組織を通じて、他事業との連携強化を進める必要がある。
- 世界遺産登録の講演会について『「鎌倉」の価値や魅力について公表する有力なツール』という認識のようだが、それなら年1回では少なすぎると感じる。
「鎌倉に住み続けたいかどうか」の回答数を指標としているが、この目標数値に近づくための具体的な事業内容が見受けられない。
- 「計画の推進に向けた考え方について」に多くの取り組むべき事項が具体的に示されているにも関わらず、指標が全く設定されていない。

提言

- 神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会の事業を進め、「鎌倉」の価値の再認識及び再発見に取り組むとともに、再推薦・登録に向けた市民等の機運の醸成を図ってほしい。
- イコモスが認める「顕著な普遍的価値」に到達できるかどうか、その可能性を見極めながらコンセプトの再構築の検討を慎重に進めていく必要がある。
- 世界遺産登録に関して、市民の感心度はかなりトーンダウンしていると思う。本気で世界遺産を狙うなら調査研究はもちろんのこと、市民向けアピール事業が必要である。
- 世界遺産登録に関しては、年に一度の講習会やSNSだけでなく、市民の多くが目にする広報誌、回覧板などを使って何度も何度も主張を繰り返すべきではないだろうか。
- 「計画の推進に向けた考え方」が非常に具体的であるのに対して、その下に設定されており、本来はより具体的であるはずの(実施事業)に具体性が無い。
- 「計画の推進に向けた考え方」が非常に具体的であるため、それぞれに対して「どの様な方法で何を行った」、「何件行った」等を記載すると共に、それぞれにあった「指標」を設定すべき。
- 「指標」にある「講演会等の実施回数」1回しかやらないのに指標とすべきではない。1回なら参加者数を「指標」にすべき。

指摘への対応、コメント等

- 平成26年度から進めてきた比較研究の取組により、鎌倉の価値がより明確になっています。今後は専門家等の意見も踏まえ、イコモスが認める「顕著な普遍的価値」に到達できるかどうか、その可能性を見極めながらコンセプトの再構築の検討を慎重に進めていきます。
世界遺産登録推進のための情報発信や普及啓発事業については、神奈川県・横浜市・逗子市と連携し効果的な事業の実施方法について検討していきます。
- 小中学生に興味をもって鎌倉の歴史を学んでもらえるように、特別展のテーマの工夫、参加型学習機会の充実、ワークシートの作成等、教育機能を高めていきます。
(文化財施設課回答)
- 「歴史的遺産と共生するまちづくり」は、平成26年度に総合計画を推進する考え方の一つに位置づけられたものであり、世界に誇る貴重な歴史的遺産を保全・活用し、後世に伝えるとともに、世界遺産のあるまちをめざすという視点をもって行政分野全般の取組を進めることにより、「住み続けたい、住んでみたい、訪れたい」まちづくりを推進するという考え方です。そのための施策として、(1)歴史的遺産の保全、(2)景観向上の促進、(3)「人」優先の交通環境の実現、(4)防災対策の推進、(5)観光と市民生活の両立、(6)環境美化の促進をかね、おのおのの担当課と連携しながら施策の推進を図るとともに、市民意識の醸成に努めています。
「歴史的遺産と共生するまちづくり」推進のため、歴史まちづくり推進担当では(1)世界遺産登録推進事業、(2)歴史的風致維持向上計画の推進、(3)日本遺産事業を実施しています。特に、日本遺産事業では、コミュニティの再生・活性化を目標の一つとして文化庁が設定していることから、「鎌倉に住み続けたい」という人を増加させることは、重要な事業目標と考えます。
指標の設定については、いくつかご提言もいただいているので、見直しも含めて検討してまいります。

提言に対するコメント等

- 歴史まちづくり推進担当では、「歴史的遺産と共生するまちづくり」を推進するための具体的な施策として、(1)世界遺産登録推進事業、(2)歴史的風致維持向上計画の推進、(3)日本遺産事業を実施しています。これらの事業を着実に推進していくとともに、事業間相互の連携を図りながら、新しい視点を持って、より充実した取組の推進に努め、歴史的遺産や自然環境を保全し確実に後世に伝えていくことで、市民が鎌倉に住むことに喜びと誇りを感じるまちづくりをめざしていきます。また、世界遺産登録についての市民ニーズについては、これまで講座実施時に参加者アンケートを行ってきましたが、27年度～28年度に実施した講演会等アンケートにおける「賛成」の比率は約50%～60%、29年度講演会での「賛成」の比率は約50%でした。現在、世界遺産登録に結びつく新たなコンセプトの構築について検討を進めているところであり、具体的なコンセプトが構築された段階で、市民や関係団体と協働して啓発活動に努めるなど、機運の醸成を図っていきたくと考えます。
世界遺産登録推進のための情報発信や普及啓発事業については、神奈川県・横浜市・逗子市と連携し効果的な事業の実施方法について検討していきます。
今後も、「歴史的遺産と共生するまちづくり」に基づく具体的な取組状況について情報発信を行い、事業推進についての市民理解を深められるように努めます。

歴史的遺産と共生するまちづくり

評価できるところ

・比較研究事業や普及啓発事業などの神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会の事業を進め、再推薦・登録に向けた市民等の機運の醸成を図る努力をしている。

| | | 評価の内訳 | | | 委員会の評価 |
|----|---|-------|---|---|--------|
| 取組 | 1 | 0 | 7 | - | |
| 効果 | 1 | 1 | - | 6 | |

課題

・世界遺産の再推薦・登録に向けた取組を進めるなかで、比較研究において成果を得ることが、新たなコンセプトを確立するための重要とされるが、進捗はどのような状況かが分からない。
 ・平成28年度の日本遺産に認定、その後の日本遺産魅力発信推進事業の推進はどのような効果を及ぼしているかが良く分からない。指標に「鎌倉に住み続けたいかどうか」を設定しているが、なにがこの指標に紐づいているのかよくわからない。
 ・「世界遺産登録」への姿勢や方針が明確になっていないため、施策に対する戦略が立てられていない。

提言

・平成28年度の日本遺産に認定、その後の日本遺産魅力発信推進事業の推進をどのようにいやすかが大事である。日本遺産事業は、国からの補助金が平成30年度で終了するが、その課題整理を行い、鎌倉歴史文化交流館の機能を工夫しながら活かしていくことが望ましい。
 ・世界遺産登録に関して、まだ市民の半数は願っているようだ。しかし、現実的には盛り上がり欠ける。目指すならば市民へのアピールに心掛けるべき。

質問

・比較研究事業の実施(国内外比較研究現地調査、海外有識者視察)では成果を準備状況報告書として文化庁に提出したとあるが、具体的にはどのような成果が得られたのか。